

第3期 江別市総合戦略(素案)に係る
意見公募(パブリックコメント)の実施結果と市の考え方について

○ 意見公募の結果

募集期間	令和7年1月15日から令和7年2月14日まで
提出件数	8人
意見数	24件

○ 意見に対する市の考え方

取扱区分	内容	件数
A	意見を受け入れて案を修正するもの	1
B	今後の進め方等において参考とするもの	10
C	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの	7
D	これまでも取り組んできているもの	4
E	案に取り入れなかったもの	2
合計		24

令和7年3月
江別市企画政策部政策推進課(総合計画・総合戦略担当)

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
1	えべつ未来ビジョン（中期経営方針）を受けた個別計画が第3期総合戦略（短期方針に感じます）であるならば、実効を具現化する末端の職員まで行動ベースで落とせるのでしょうか。それが出来なければスローガンだけの絵に描いた餅になります。 上場しているような企業では、社長の経営方針が出れば、各事業本部や各部署の長（〇〇部長）は経営戦略を株主（市民）の納得が得られる内容を作り、〇〇課長は自組織の戦術作成にかかります。その下の係長クラスは更に個別具体的な作戦を考え、これらを「評価制度項目」に記載し、半期や1年毎に直近の市場変化をリサーチ「R」し、攻めやすさと魅力度のプライオリティシートを検討しながら半期や1年のゴール「G」を決めてP-D-Sサイクルを回す。RGPDSサイクルは短期、中期、長期で回していく。この仕組みが充実していけば、目標は限りなく実現に近づくし、自分の仕事の遂行が市長の示す未来ビジョンに近づく実感が更に色こく持てます。 更に省庁で言えば事務次官に該当する職員トップの副市長も市を代表する市長も現在の総合戦略の遂行状況は、最終的にトップが承認したロードマップに基づき進められているので、誰から聞かれても各部署の遂行状況が把握出来ますし、遂行状況に難航している部署の適時的確なサポートが行えるので、有言実行型行政が実現します。ご検討願います。	本戦略は、本部長を市長とした内部会議に諮りながら策定をしており、全庁的に理念や方向性を共有しながら進めてまいりました。 これらを実現するための具体的な施策につきましても、策定段階から担当部局と協議を重ねてまいりました。 また、本戦略の推進にあたっては、本戦略第2章の5に記載のとおり、PDCAサイクルや学識経験者や有識者等によって構成する外部会議等により進捗管理を行ってまいります。 ご意見のとおり、策定した計画が各職員の共通理解の下、具現化していくよう取組を進めてまいります。	C
2	学園都市4大学の江別市定着不足問題と企業誘致問題です。 行政の組織運営の問題は、縦割りが強すぎる点です。 4大学の学生は中々江別市に就職しない。何十年も問題意識を持ちながら、理由がわからない訳がないと感じています。言わずもがなではありませんが、学生は少なくとも学んだ知識を活かす環境を希望する。産業分類ではなく職業分類で仕事を探す。 選択可能な企業がありながら定着しないのは、周知不足ですが、そもそも選択可能な企業が無ければ企業誘致を複数部署と連携しながら戦略的に誘致する必要があります。 しかし、企業誘致の内容には明確な表現はなく何とでも解釈できる表現しかない。これでは実戦部隊は動きませんので、実践部隊が庁舎内各関係部署とより連携する事が、外部と連携する前に重要なことと思います。	ご意見にありますとおり、市内4大学の卒業生のほとんどが市外に転出しており、その要因の一つとして、希望する職種が市内企業には少ないという声も承知しているところで、 少数ながら市内企業に就職している実績もありますので、企業と学生のマッチングを推し進めるとともに、さらなる定着を図るため、商工労働部門や企業誘致部門との連携による戦略的な企業誘致につきましても検討してまいります。	B
3	○総合計画を着実に進めるためのインナー対策 江別市の職員も総じて基礎学力は高い方だと思います。しかし、一般的な表現である頭が良い人と仕事ができる人は違うのが世の常です。 ポテンシャルが有るのに生かしきれないのは、組織の罪、管理職の罪だと思います。管理職の仕事は業種業界共通に自部署に課せられた目標の達成とこれを成し得るための人材育成に他ならないからです。 また、人間は忘れる生き物です。記憶保持率とか記憶の忘却曲線とか言われますが、ざっくり表現では24時間経過で70%忘れます。30日経過では80%忘れる生き物です。だから職員に対しても、市民に対しても江別市は〇〇を目指すまちです。と胸を張って言える環境が重要です。 考え方が言葉になり、言葉が行動になり、行動は習慣となり、習慣は性格を作り、性格が運命となる。（マザーテレサ 省略表現） だから、行動を起こさせるには考え方をしっかり刷り込むためのインナー対策は絶対必要です。	ご意見にありますとおり、組織マネジメントと人材育成は、効率的な行政運営を行っていく上で重要と認識しており、引き続き「江別市人材育成基本方針」に基づき、管理監督者のマネジメント能力を強化するための研修や、職場内におけるOJTの推進により、コミュニケーションの活性化を図り、組織力を高めてまいります。 また、職員の成長を支援するため、スキルアップやキャリアパスの明確化を図り、職員一人ひとりがその意欲と能力を最大限発揮できるための職場環境づくりを進めることで、本戦略の実効性が高まるよう努めてまいります。	D

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
4	江別市内のＪＲ駅を核として、市内（市立病院）間及び新札幌とのバス路線の確保を図ること。具体的には、ＪＲの札幌駅間の列車本数を維持しその駅到着時間に連動したバス発着時刻とすること。 また、列車本数に見合ったバス本数が確保出来ない状況を改善するため、特に江別駅近辺に時間を過ごせる（冬期間は待合室的な）空間を設置する。 当面はコンビニを誘致する。各駅に平行する住宅地からＪＲを利用せず新札幌に行けるバス路線を増加させる。 出来ない場合でも（バス会社が異なっても可能な）乗継料金とする。	バス事業においては、利用者の減少による運行収支の悪化に加え、運転手不足が深刻化しており、既存の路線を維持することも難しい状況となっておりますが、引き続き、関係事業者と協議を行いながら、バス路線網の維持に努めてまいります。 また、ダイヤ改正や乗継料金につきましては、今後の関係事業者との協議の際に、貴重なご意見として活用させていただきます。 なお、江別駅近くに時間を過ごせる空間の設置やコンビニの誘致については、駅周辺の整備動向とも関連することから、今後の検討の参考とさせていただきます。	B
5	徒歩圏外の学校への通学手段の確保も検討する必要があります。 また、自家用車の使用しない層に対する通院や買い物等に便利で費用負担の軽減も必要だと思えます。（江別駅しか現状は分からないため、他駅については調査が必要）	市街化区域外に居住する児童生徒の多くは、徒歩で通学することが難しいため、スクールバスやスクールタクシーを運行することにより対応しております。 また、費用負担の軽減につきましては、公共交通の利用促進策を検討する際の参考とさせていただきます。	D
6	２０年前にゆめみ野地区に一戸建てを購入した際には、将来的にも住み心地の良い地域と考えていましたが、地域住民も２０年の歳を取り老人層が多い地域となり、住み始めた時とは求められる住民サービスが変わってきていると思います。 この地域もあと１０～２０年後には住民も入れ替わることも視野に総合戦略を立案するべきです。	第３期総合戦略は、将来人口推計に触れながら、人口減少・少子高齢化社会の中でのまちづくりの方向性を示したものとしております。 ゆめみ野地区のみならず、江別市全体の問題として、中・長期的な視点に立ち、安心して住み続けられる、また、住み替えの促進等により活性化されるまちづくりを目指してまいります。	C
7	（個人名）さん（Facebookアカウントとブログあり）に江別市の地方創生について、江別市の資料を読み込んでもらった上でレクチャーしてもらおうといいかなと。 市長をはじめ、全市議会議員など、できるだけ多くの市職員、自治会、会社経営者、市民活動家、市民を集めてやるのを提案しますね。	まちづくりを行う上で、様々な方に意見を頂戴することは非常に重要だと考えており、これまでもワークショップ等を通じて、市民の皆さんと意見交換をしてきたところです。 ご意見のありました、有識者による地方創生に関する情報発信等についても実施手法を検討してまいります。	B
8	江別市はいうまでもなく、札幌市のベッドタウンとして存在する地方自治体です。札幌に働きに出て、住居は江別市にあるという方も少なくないでしょう。そうした環境に求められるのは癒しの場です。市としてもそうした機会を設けるべく、利用者側に費用負担の少ないイベント・企画の場をより多く設けていただけたら幸いです。	ご意見にありますとおり、江別市には、日中、市外に働きに出る方も多く居住しております。そうした方が、江別市に住んで良かったと思っていただけるよう、引き続き、魅力ある各種イベント等の充実を図ってまいります。	B

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
9	現在の江別市の農業は、化学肥料、化学農薬のおかげで安定的に農産物の生産量は確保しているが資材の高騰、農業従事者の高齢化により持続可能な農業とは言い難い。 みどりの食料システム戦略も策定され、全国でオーガニックヴィレッジ宣言や有機農業の推進、オーガニック給食が始まるなど、身体や環境に優しく持続可能でファミリー層の移住もしやすい街作りが進んでいるが、江別市では有希ＪＡＳ取得の農家は少なく、環境保全直接支払い交付金も交付されていない。 江別市の保育園幼稚園では、オーガニック給食を取り入れている園も多いだけに健康都市宣言をしている街として、持続可能な健康的で環境にも優しい有機農業の割合を増やし、オーガニック給食を月１回、年１回からでも少しずつ取り入れるなど、検討していただきたい。	江別市では、減農薬などの環境保全効果の高い取組や、スマート農業の推進、土づくり・土地改良などにより、持続可能な農村環境づくりを推進しております。 また、市内では、有機農産物等に係る検査認証制度である有機ＪＡＳの認証を受ける生産者も一定数いるものと認識しております。 引き続き、江別市農業振興計画に基づき、子どもを含むより多くの消費者に対して、安全・安心な江別産農畜産物の供給に努めてまいります。	B
10	人口減少問題が加速する中、江別市で４人の子育てをしている母です。 中学の娘が先日ポツリと発言した一言。「江別駅周辺が、暗くてお店も全然ないね、空き家も多くて怖い。」 子ども達が主に利用する駅は江別市、江別駅なんです。 さらに、私自身が感じることは、飲食店が野幌駅ばかりに集結しているので、最寄りの駅、江別駅にも飲食店があってもっと活気づいて欲しいです。なんだか江別市なのに江別駅を忘れられてしまってる印象で寂しいです。 学校行事の集まりではいつもお母さん同士で野幌まで行かないと、集まれるところがないよね、という話題になります。 今回は江別駅をテーマに人口減少と高齢者による空き家問題、ここに着目しました。 江別駅の暗いイメージも空き家問題解決により改善されます。 江別駅周辺の高齢者による住宅維持が難しくなった空き家放置の江別駅周辺には以下のリスクが考えられます。 ①景観の悪化 ②老朽化による崩壊、火災のリスク ③不法侵入 ④住宅価値の減少 現状、景観の悪化が治安悪化や暗い印象をもたらしています。 解決策としては空き家を活用した古民家飲食店の推奨。助成金やリフォーム費用を手厚くすることも同時進行でなければいけません。 また、空き家を更地にして売土地を増やす。 若者世代への切り替えるタイミングが今だと思います！ もっと飲食店を増やして下さい！ 活気づいた明るい景観の環境作りは親達も江別は楽しい！住みやすい！治安もいい！子供達にとっても江別で働きたい！移住、家庭を作りたい！ そういう風に繋がっていき人口減少の問題の解決に向かうと思っています。	総合戦略においては、元気な経済をつくるために、企業誘致や中小企業への支援の充実を推進していくこととしております。 特に、江別駅周辺の活性化は、江別市の重要な課題であると捉え、現在、旧岡田倉庫を整備するなど、江別地区の歴史的建造物や歴史性等を活かした、条丁目地区の賑わい創出を図るかわまちづくり事業を進めております。 旧江別小学校跡地の利活用についても現在、民間事業者との意見交換を行っておりますことから、ご意見のありました江別駅周辺の活性化につきましては、基本目標１の①の具体的取組に、その旨を記載することといたします。 また、空き家の問題解決に向けては、引き続き、空き家所有者に適切な管理を促すとともに、関係機関と連携して空き家の市場流通の活性化等に取り組んでまいります。	A

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
11	第2章の1「総合戦略の目的や位置づけ」において、江別市における自治の基本を定めた「江別市自治基本条例」があることを「(1)目的・背景」で明らかにし、「(2)えべつ未来づくりビジョン（第7次江別市総合計画）との関係」では、この計画が自治基本条例第13条に基づき策定されたものであることから、総合戦略においても自治基本条例が根底にあることを明快にすべきであり、総合計画は自治基本条例に基づき策定されたものであることを明らかにする必要がある。 第1期及び第2期の総合戦略に入れられていなかったものを第3期で修正追加することに支障はない。	市の最上位計画である総合計画は、市の最高規範である自治基本条例第13条の規定に基づき策定されております。 総合戦略は、総合計画の下に位置付けられた個別計画であり、直接的に自治基本条例の規定に基づいて制定されているものではないことから、条例に関する記載をしておりません。 なお、計画の策定に当たっては、ワークショップ等を開催し、市民の皆さんのご意見をお聴きしながら進めてきたところです。	D
12	第2章の3「総合戦略の基本目標」のうち、「持続可能な地域をつくる」のは、経済だけでなく、環境、医療・介護、教育などの多様な分野の取組が必要であることから基本目標では幅広く考える必要がある。	総合戦略は、人口減少・少子高齢化に関する取組の方向性を示したものとしております。 そのため、基本目標を4点に絞り、そのうち基本目標1を「持続可能で元気な経済をつくる」とし、経済分野の取組を記載しております。	E
13	第2章の4「総合戦略の推進」の「(1)協働による取組」は、例示されているような狭い範囲ではなく、協働が展開されている環境、医療・介護、小中高の学校の活動などとの連携もしっかり位置づけられるべきである。	「(1)協働による取組」には、多様な主体の例として、市民、自治会、NPOなどを記載しております。 協働の考え方は幅広いため、全てを記載することは難しいですが、環境分野、医療・介護分野、小中学校等、教育分野に携わる方々とも連携してまいります。	C
14	第2章の4「総合戦略の推進」の「(3)地域資源や地域特性を生かした取組」では、先端半導体産業の立地、DX、GXの推進などの道央圏における取組や動向への対応が見えない。このままでは江別市は取り残され、立ち遅れることが憂慮される。新しい動きに対応する戦略を盛り込む必要がある。	「(3)地域資源や地域特性を生かした取組」は、現在の江別市の資源や特性を記載しております。 ご意見にありますとおり、道央圏においては、様々な動きがあることは承知しておりますので、情報収集を行い、機会を逃すことのないよう努めてまいります。	C
15	第2章の4「総合戦略の推進」の「(4)デジタル技術を活用した取組」では、例示されたような限定的な取組だけでなく環境、医療・介護、教育、農業や加工・流通など多目的な取組が進んでいることを確認して戦略展開の可能性を広く認識して言及すべきである。	デジタル技術は、行政のみならず経済、地域活動などを変革するものであると認識しております。 そのため、「(4)デジタル技術を活用した取組」では、各基本目標を達成するためにデジタル技術を活用していく旨を記載しております。	C
16	基本目標2の基本的方向では、半導体産業の立地やDX、GXの展開などの新しい動きについて言及していないが、対応戦略なければ江別は取り残される。これらの新しい動きに即した基本的方向の見直しが必要である。	基本目標1の基本的方向の中に「道央圏への産業集積の動きを捉えた企業誘致」を掲げており、これは、ご意見にあります半導体産業の立地等を見据えた記載となっております。	C
17	基本目標2の「(3)具体的な施策と重要業績評価指標」について、「③市内大学と連携した学生の地域定着や関係人口の創出・拡大」の指標が市内の地域活動に参加した延べ学生数だけでなく、大学を卒業して市内で就業した学生数が本来の指標でなければ、目標への寄与が評価できない。 また、市内から市外の大学を卒業して市内に就業した者や市外出身で市外の大学から就業したものも含めて市内で就業した学生数を指標に加えることで就業実態を把握することも必要である。	ご意見にありますとおり、市内4大学の学生が市内企業に就職することは重要と考えておりますが、加えて、卒業後も江別市との関係性を持続していくことも重要だと考えており、本総合戦略においては、将来的な定住人口・関係人口の創出に視点を向け、KPIを「市内の地域活動等に参加した延べ学生数」としたところです。	B

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	取扱区分
18	基本目標2の「⑤新たなシンボルとなる新庁舎の建設」について、たくさんの市民から意見を聞き、多様な論議を得て形になってきたものであることを戦略として言及すべきである。	新庁舎建設に係る経過につきましては、市ホームページにおいて、関係団体や公募市民を含む委員で構成された「江別市本庁舎建設基本計画検討委員会」の議事録や、市民ワークショップ等の開催概要等を記載した「江別市本庁舎建設基本計画」等を公開しておりますことから、本戦略には記載しておりません。	E
19	若い世代の子育てに対するイメージの確認、イメージアップを図る必要がある。 子育て→自分の時間が減る。給料も減る。おしゃれ出来ない、とにかく忙しい。辛い。どこも行けない。夫手伝ってくれなさそう。お母さんがお父さん何もやってくれないと言った。などなど この辛い面をカバーするためにいろいろサービスや講習などを充実するのは分かるが、そもそも、そんなイメージを持ってるので妊娠するまではそのことを知ることが少ないので、育児について、楽しい、幸せに感じたなどのプラスの面もたくさんあるんだよ、というか寧ろそこをしっかりと教えていった方がいいと思う。 小学生、中学生、高校生などに教えて、更にこういったフォローを江別はやっているよと簡単に伝えるとイメージ向上に繋がるのでは。(将来、結婚や出産をする世代へ向けての意識改革)	子どもを持つ前から子育てのイメージや準備を進めることは、少子化対策として重要な視点だと考えております。 江別市では、中学生と0～1歳のお子さん及びその保護者が交流を行う「ふれあい授業」や小学生が助産師から妊娠・分娩の仕組みやその喜びなどを学ぶ「いのちの学習」などを通じて、出産・子育てへの理解促進のほか、育児の楽しさや幸せといった観点からも、引き続き、理解が進むよう努めてまいります。	B
20	基本目標2の具体的施策の一つに「市の強みを生かした移住、定住支援」とあるが、江別札幌の隣町で交通アクセスの優位性がありながら現状はドライバー不足による減便があり、市外へ働きに出ている人にとっては結果近いけど遠い。優位性が生かされていない。PRするには江別に住みたいポイントとしては減点だと思う。そこは強みとして、ドライバー補充に力を入れた方がいいと思う。	江別市は大都市札幌市に隣接し、充実した交通アクセスを有するほか、宅地の取得のしやすさや豊かな自然環境などから、多くの子育て世代に選ばれているところです。 ご意見のありましたバス事業においては、利用者の減少による運行収支の悪化に加え、運転手不足が深刻化しており、既存の路線を維持することも難しい状況となっております。そのため、バス事業者では、運転手確保策として給与や労働環境等の待遇を改善するとともに、積極的な採用活動を行っているところでありますが、市としても、北海道など関係機関と連携を図りながら、運転手の確保を支援してまいります。	B
21	産後ケアを、江別市内でもっと充実して欲しい。 泊まりたいけど江別は少なく、また予約が取れないと聞いた。他は札幌市なので遠いから使えなかったりした。 産後6ヶ月までは比較的穏やかに過ごせたが、赤ちゃんの情緒や身体の発達で大変さや疲労から6ヶ月以降にも話を聞いてもらいながら美味しい食事も施設で食べれたり、利用できたら良いと思った。 他はやっていないが江別市はやっているとすれば、アピールや母親の安心に繋がると思う。	江別市では、令和6年度現在、産後ケアを6か所で実施しており、市内では江別市立病院（訪問型）、プリモウイメンズクリニック（日帰り型）及び助産院Hugねっと（宿泊型、日帰り型）で実施しております。 産後ケアは、年々利用希望者が増えていることから、江別医師会や北海道助産師会等と連携し、実施機関の拡充に向けて調整を進めております。 今後につきましては、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図ること、子どもを産み育てやすい環境を整えてまいります。	B
22	近年子どもの視力低下や内斜視が問題になっているが、タブレット学習の普及により目の負担がかかっていることが考えられるが、この問題について、学習に際しての使用時間の制限など何か対策はあるのか、ないなら対策してほしい。	国による「GIGAスクール構想」の推進により、江別市でも児童生徒に「1人1台端末」が整備され、デジタル端末の活用による学習が定着しております。 ご意見にありますとおり、デジタル端末の長時間の注視は、眼精疲労やドライアイを生じる可能性があるため、文部科学省のガイドラインでも「端末を見続ける学習時間が一度に長くならないように配慮する」、「目と画面との距離を30cm以上離すこと」などを意識するように記載されており、学校現場においても配慮しているところです。 なお、江別市立小中学校では、就学前の就学時健診や小学校4年生を対象とした眼位異常や眼疾病を診る眼科検診のほか、視力検査を毎年実施しておりますので、引き続き児童生徒の視力・見え方の状況に留意していくとともに、デジタル端末の使用に際しては、学校と家庭の両者が連携して児童生徒の健康面への影響等に配慮してまいります。	B

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	取扱 区分
23	歩道がボコボコでベビーカーで散歩してるが散歩しにくい。高齢者や車椅子も大変だと思 う。 江別は子育て世代と高齢者が多いイメージ。 両者が過ごしやすくするためにも歩道の整備をお願いしたい。	歩道の凹凸などの道路の破損につきましては、道路の破損状況等に応じて計画的に改修工事を進めております。 また、部分的な道路の破損につきましては、道路パトロールのほか、電話やメール、L I N E などによる市民の皆さんからの情報提供により把握し、緊急性・安全性などを踏まえて適宜、補修対応を実施しております。 安全な歩行空間を確保することは重要であると考えておりますので、今後とも安全で快適な道路環境の維持に努めてまいります。	D
24	基本的方向として、多文化共生を踏まえた国際理解の推進とあるが、国際交流の一環として、meet up in江別を開催してほしい。 言語交換の機会があれば、外国言語に触れる機会が増え、学ぶこと通じ合うことの楽しさをより身近に感じることが出来ると思うし、国際理解も推進出来ると思う。札幌市にMeetupはあるがなかなか家庭の状況によっては市外まで行けないが江別市内なら参加出来る人もいると思う。 やるなら新聞などに記載してアピールするとたくさんの人の目に留まると思う。	地域の国際化や国際交流の役割を担う江別市国際交流推進協議会では、「世界市民の集い」等の各種イベントをはじめ、市国際交流員によるトークサロンや韓国語のフリートーク、「にほんご」を学ぶ在住外国人の交流会などの開催・実施を通じて、外国語や多文化に触れる機会を提供しております。 江別市においても、在住外国人数が増加傾向にあることから、様々な言語や文化に触れる機会を提供することは重要だと考えており、引き続き、外国人との相互理解の促進に向けた様々な取組を行うとともに、市広報紙やＨＰのほか、市公式ＬＩＮＥなど各種ＳＮＳを活用した情報提供を進めてまいります。	C